

読み書きが困難な児童生徒に代替手段としてのタブレットPC活用（例：手書きの代替としてキーボード入力）を検討したいのですが、周りの児童生徒から「なんで〇〇さんだけ？」「ずるい」という声が上がりがそうで心配です。学級でどのように説明すればよいのでしょうか？

## ▶どんな意見が出されましたか？



「ずるい!」という声が上がったら、学級全体でとことん話し合います。



「ずるい」という声が上がりがちな学級であれば、規律が乱れるリスクがあるので、タブレットPC活用は保留にします。



周りの児童生徒に何をどこまで説明してよいかを保護者に確認します。



## ▶ワンポイント解説



- 普段から学級内において温かい人間関係づくりに努めながら、「特別な支援の必要性」の理解を進め、互いの特徴を認め合い、支え合う関係を築いておくことが大切です。

【補足資料1-4】

- みんなと一緒に学習したり、同じ内容のテストを受けたりするために、困難なことに応じて学習の“手段”を変えるだけであることを伝えます。例として、骨折した人が松葉杖や車いすを使用すること、聴覚障害の人が補聴器を利用すること、視覚障害の人がメガネをかけること等を示してもよいでしょう。

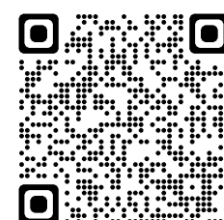
【補足資料1-3】

(参考) NHK for School「u&i」に掲載されている「アイツだけ、ずるい!」

▶ テストにおけるタブレットPC活用について10分間の動画で分かりやすく解説されています。

学級で視聴することで「特別な支援の必要性」の理解を深めることができます。

[https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das\\_id=D0005190179\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005190179_00000)



- 周りの児童生徒に説明する前に、そのタイミングや説明内容等について本人・保護者の了解を得る必要があります。その際、必要に応じて、学年主任や特別支援教育コーディネーターが同席することも検討しましょう。担任個人の裁量ではなく、学校として組織的な対応を行うことが重要です。